

景況レポート

(9月分・情報連絡員80名)

景況感は2ヶ月連続で悪化 ～非製造業で悪化傾向が強まる～

【概況(全体)】

前年同月との比較による9月の県内景況は、景況が「好転」したとする業種割合が12.5%、「悪化」業種割合が36.3%で全体の景況DIは-23.8となり、2ヶ月連続で悪化した。業種別に見ると、製造業全体のDIは-9.3で前月比横這い、非製造業全体では-33.4と2ヶ月連続で悪化した。

また、全国や北海道・東北ブロックと比較すると、本県は製造業のDI値が大幅に上回っており、これは繊維製品や鉄鋼・金属など製造業が好調に推移したことによるものでこの結果、業界全体のDI値についても全国や東北・北海道ブロックを上回ったものである。

【業種別の状況】

県内15業種のうち、前月比で「好転」したのは繊維工業(繊維製品)、鉄鋼・金属、運輸業など4業種で、今後の見通しでは、木材・木製品製造業において住宅建築の需要回復に伴う売上・収益の増加が期待されている。

一方、7業種が「悪化」しており、野菜の主要産地が豪雨被害に遭った青果卸売やガソリンの小売価格低下に苦しむ石油小売のほか、原料コストの増加や個人消費の減退、消費者の低価格志向に悩む共同店舗、食料品製造業なども低調に推移した。

＜全国の景況DIとの比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-23.8	-27.0	-33.3
製造業	-9.3	-29.6	-40.9
非製造業	-33.4	-25.1	-28.9

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 曇り △10以上 △30未満 雨 △10未満 雷雨 △30以下

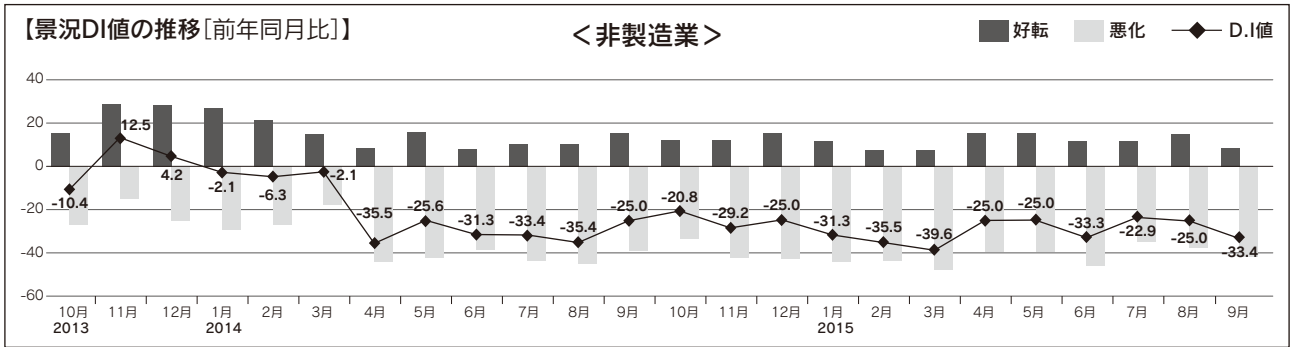
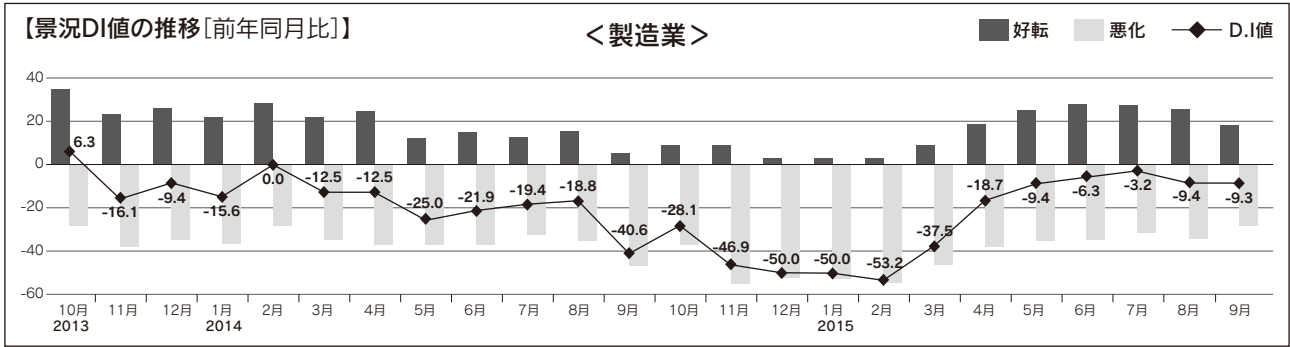
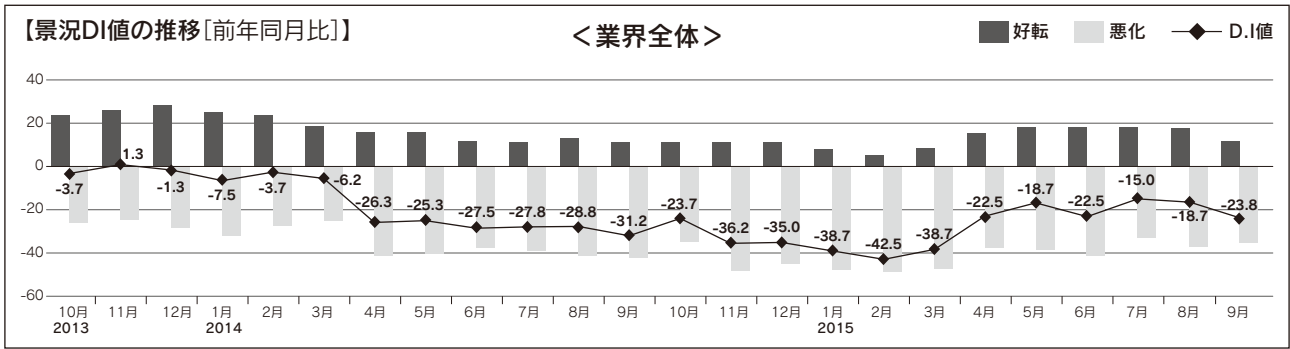
【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (味噌醤油)	8月の味噌の出荷量は前年同月比で100.7%、醤油の出荷量は前年同月比92.5%で推移した。全体の需要が低迷している中、大手業者が売上を伸ばしており、中小企業は厳しい状況となっている。
食料品 (麺類製造)	原材料等の値上がり分を商品価格に転嫁できていないため、収益の改善が見込めない。また、消費者が低価格志向となっており、大手ナショナルブランドやプライベートブランド価格に対抗できず、厳しい販売状況となっている。
繊維工業 (繊維製品)	受注状況は改善しつつあり、今後の冬物の追加発注に期待している。なお、加工賃については依然として厳しい状況にある。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	県外からの受注により売上は前年同月比で増加したが、製品価格は低水準で推移しているため、収益が改善するまでには至っていない。(中央地区)
木材・木製品 (プレカット)	9月は住宅関連の受注が増加したため、前年並みの受注量を確保できている。
印刷	依然として消費の低迷が続いており、発注価格は安値で推移している。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	9月の出荷数量は前年同月比90%前後、4月～9月の累計では前年比84%台と予想される。県北地区、県南地区の一部で出荷が伸びているが、中央地区、本荘由利地区では依然として需要が低迷しており、厳しい状況にある。
鉄鋼・金属 (機械金属)	前月に引き続き、各社とも当面の受注は確保しており、稼働率は100%以上となっている。
一般機器 (金属加工)	各社によって売上にバラツキが見られ、今月の売上は前年同月を下回る結果となった。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	曲げわっぱ製品の人気は続いており、弁当箱類は1～2ヶ月待ちの状況だが、人材確保や設備投資については慎重になっている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	9月の売上は、前年同月比98.9%で推移した。猛暑により野菜の生産量が減少したほか、主要産地である栃木県や茨城県が豪雨による被害を受けたため、かなりの品目が品薄となり、価格が高騰している。
卸売業 (古紙)	新聞や雑誌の購読減少やペーパーレス化の影響等により、全体の回収量は前年同月比で10.6%(約73トン)の減少となった。
小売業 (共同店舗)	9月は、前年同月比で売上は7%、客数は12%それぞれ減少となり、収益状況や資金繰りも悪化している。(能代市)
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり130円20銭で前月比50銭の値上がり、軽油は1ℓあたり115円50銭で前月比1円20銭の値下がり、配達灯油も18ℓで1,362円と前月比41円の値下がりとなっている。なお、仕切価格は値下がり傾向にあったが、小売価格が全国最安値まで低下したため、収益は悪化した。
商店街	小売業の売上は、前年同月比で9～10%の減少となっており、依然として厳しい状況にある。(秋田市)
サービス (建築設計)	民間工事、住宅建築とも低迷していることに加え、工事現場では人手不足により工期が延長となるなど、売上が増加しにくい状況となっている。
サービス (旅館ホテル)	宿泊者数は前年同月比で減少となったが、シルバーウィークに関しては、概ね期待どおりの賑わいが見られた。
建設業 (管工事)	受注工事の施工は順調に進捗しており、更なる受注も期待されるのだが、一部で人手不足の状況となっている。(県北地区)
運輸業 (トラック)	シルバーウィークまでは荷動きが良くなかったが、9月決算企業の影響等もあり、休み明けはトラックが不足するほど荷動きが活発だったため、売上・収益とも前年同月を上回った。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	公共工事発注の遅れ等により資材の動きが鈍いため、出荷量は前年同月比で25%の減少となった。(県南地区)